動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

90. 1. 31 No. 3153

90年代の幕開ける！2・3月決戦！

―動労千葉第一回労働学校―

動労千葉第一回労働学校は、一月二七日、労働者福祉センターにおいて開催され、講師として本部・中野委員長を迎える中で、九〇年代労働運動の課題と展望をテーマに、十二・五―一・一八ストの総括を中心として講演を受け、九〇年代がいかなる時代であり、いかに闘うべきか―労働運動の質が問われていること、とりわけ国鉄闘争―清算事業団闘争の展開によって状況が大きく切り拓かれることが明らかにされた。われわれは、今次ストの成果を全体で確認し、二～三月闘争へ驀進しようではないか！

講演に先だち、この日来賓として参加された反対同盟・北原事務局長は、「動労千葉と反対同盟の共闘関係は、今日なお勝利に向って闘いぬかれている。現地情勢は、成田治安法の発動―現闘本部封鎖攻撃に対して、農民だけでこの闘いをやりきる決意の下に、国家権力の不法不当な姿を白日の下にさらした。成田治安法とは、公共事業の名の下に、人権・生活権を奪っていくものである。

現在の表現の自由、言論の自由、スト権さえ奪われていく状況を見た時、誰がそれを証明して闘っていけるのか、闘う中から三里塚闘争の正義と労働者との共闘、前進をつくっていきたい」と訴えられた。つづいて講演に入り、

講演要旨

一、九〇年代とはいかなる時代か

①世界情勢は昨年一年間におこった出来事（天安門―ベルリンの壁崩壊―米パナマ進行―チャウシェスク）の中に九〇年代を予見させる。

②日本では、「戦後政治の総決算」攻撃―税制改革―経済界の投機主義、一方における公安・政治警察の肥大化による支配体制―軍事大国化。

③労働運動の側は、「戦後政治の総決算」攻撃のターゲットとしてあった総評解散―国鉄分割民営化攻撃の過程を経た産報化攻撃＝連合結成へと右翼的労戦統一へと進行している。

二、九〇年代労働運動の課題と展望はどこにあるか、九〇年代を決する九〇年闘争の焦点は、

①「天皇」制との対決

②「三里塚」二期決戦

③「国鉄」＝清算事業団闘争の展開

の三つの課題と闘いの中にこそ、九〇年代の労働運動を牽引していく質があることが明らかにされたのである。

討論を含め、この二～三月決戦の意味する重要な意義を全体化させ、九〇年代を自らの力で切り拓くことを確認したのである。

いすみ支部も闘う！

―第3回定期大会かちとる―

1月25日

いすみ支部第三回定期大会は、一月二五日、御宿町民宿「たちばな」において組合員全員出席のもとに開催された。

沢副支部長の開会のあいさつのあと、支部を代表して五十嵐支部長は、「動労千葉は、今清算事業団組合員の原職奪還をかかげ、定年制改悪粉砕をかかげて、二波にわたる全乗務員による二四時間ストを打ちぬいた。いすみ支部も勤務者以外全員の支援動員をかちとり、出身の勝浦支部組合員と共に闘いぬいてきた。この間、鉄輪旗を守ってきた組合員の協力に感謝する。いすみ支部も出向期間二年を過ぎ、三五才以下の組合員の引き上げ問題が会社側からいわれている。JRの九〇・三ダイ改に伴い、いすみ鉄道もダイ改が行われ、単年度赤字が四千万から六千万に増大していることを理由に、現行三九時間の勤務時間を四一時間平均に設定する話がもち上っており、要員削減にもなりかねない。OBの正社員と協力して対応して行きたい。出向問題が今後どうなるのかについても大会で充分論議していきたい」と提起された。

つづいて、本部を代表し水野執行委員から十二・五と一・一八の二波のストライキの経過と総括、今後の闘いの方針が提起され、その後、君塚書記長から経過報告、決算報告、運動方針がそれぞれから提起され、討論に入った。

討論はなごやかな雰囲気の中にも活発に行われ、最後に、今年一月で定年退職となる篠宮氏から引きつづき組合員としてがんばる決意表明が行われ、全体の熱い拍手の中で大会は終了した。

ひきつづき、篠宮氏の慰労会を開催した。

役員体制

支部長　五十嵐浩吉
副支部長　沢　昭朗
書記長　君塚　時雄
乗務員会長　中村　英晴

90年代の勝利へ、新たな10年を切りひらこう！